



The Federation of Japanese Chambers of Commerce and Industry in ASEAN

2025 年 7 月 18 日

ASEAN 日本人商工会議所連合会（FJCCIA）

（第 17 回 ASEAN 事務総長と FJCCIA の対話）

ASEAN に進出する日系経済界からの要望書（2025 年）

— 混迷深まる世界で繁栄するための未来共創 —

2023 年の日 ASEAN 友好協力 50 周年を機に、日 ASEAN 経済関係は再構築の機を迎えている。同年に日本の官民等により「日 ASEAN 経済共創ビジョン」が策定され、その実現に向けて、様々なプログラムや事業が実施されている。日 ASEAN 関係の深化を目的とした本対話も 17 回目を実施することができた。お時間を割いていただいたカオ・キムホン ASEAN 事務総長、サトヴィンダー・シン次長ならびに ASEAN 事務局の皆様、改めて御礼を申し上げたい。

前回対話以降、国際経済の分断と対立は深刻化し、経済活動への影響が懸念される地政学リスクが高まっている。インド太平洋地域の「要」に位置する ASEAN の役割は、グローバル経済が強靱性を示し、持続可能な形で発展する上で、その重要性を一層増している。長年 ASEAN への投資を拡大させてきた日本企業にとっても、ASEAN は事業活動上欠くことのできない最重要パートナーのひとつであり続けることとは疑いようがない。

特に直近の競争環境に関して、米国の関税措置をはじめ、主要国の政策介入や保護主義に対する先行きの不透明感がかつてない水準に達している。FJCCIA は、2025 年 4 月に ASEAN 経済大臣が共同声明において、米国と率直かつ建設的な対話に臨みつつ、地域経済統合を深化させるべく、ASEAN 物品貿易協定（ATIGA）や ASEAN デジタル経済枠組み協定（DEFA）などのイニチアチブへの継続支持を表明したことを歓迎する。FJCCIA 会員企業からも同様の懸念が聞かれており、ASEAN での事業活動に関する予測可能性の確保や今後の事業拡大に向けて、ASEAN 各国の通商交渉や公平な競争環境の整備などを期待している。

日 ASEAN 経済共創ビジョンを推進する「未来デザイン&アクションプラン」では、コネクティビティの強化や人的資本を共創するためのエコシステム構築、オープンイノベーションの推進、サステナビリティの実現が軸となっている。FJCCIA としても、同ビジョンに賛同し、人的資本を含めたサプライチェーンの強靱化のほか、ASEAN におけるグリーン・トランスフォーメーション（GX）やデジタル・トランスフォーメーション（DX）をはじめとする新たな分野における協力を推進し、活力ある未来を共に創っていきたい。

FJCCIA としては、2025 年 5 月に ASEAN 首脳により採択された、ASEAN 経済共同体（AEC）ブループリント 2025 以降の方針を定めた「AEC 戦略計画（2026～2030 年）」に記載された目標の達成に向けて、ASEAN と共に取り組んでいきたい。同計画が掲げる、ASEAN 域内および域外パートナーとのコネクティビティの強化や包摂性、持続可能性、デジタル上の課題への対応など、幅広い事項で連携することで、ASEAN の競争環境としての地位をさらに高め、ASEAN の地域統合をサポートしたいと考えている。特に、2025 年の ASEAN 議長国であるマレーシアが重視する持続可能性や包摂性に関して、アジア・ゼロ・エミッション共同体（AZEC）のアクションプランに基づき、ルール形成を含めて脱炭素化に共に取り組みたい。

FJCCIA の 2025 年の要望書では、AEC ポスト 2025 アジェンダを想定し、4 つの柱に基づいた提言をまとめた。特に強調したい要望・提案事は Appendix I の通りである。要望内容を各商工会議所が精査し、各要望事項についてフォローアップ担当を定めている。

今次対話では、ASEAN における日本企業の事業活動や投資状況についてもお伝えしつつ、ASEAN 側からの日系企業に対する期待や要望をお伺いできればと考えている。本要望書をベースとしつつ、新たな ASEAN 経済共同体（AEC）を通じた地域の繁栄（Prosperity）に向けて、有意義な議論ができれば幸いである。

最後に、ASEAN の重要性が増すなか、多数の関係者・パートナーとの会合で多忙なカオ・キムホン総長に、FJCCIA 対話へのご出席をご予定いただき、心よりお礼を申し上げたい。カオ総長、シン次長、ASEAN 事務局の関係者にお会いできることを楽しみにしている。

若林 浩一

議 長

ASEAN 日本人商工会議所連合会（FJCCIA）

< Appendix >

- ・ 2025 年要望書の 4 つの柱
- ・ 要望書 添付表



Appendix. I

2025 年 FJCCIA 提言の 4 本柱

提言の柱 1：強靱なサプライチェーン

- 貿易・投資上の市場開放性の確保
- 自由貿易協定（FTA）の推進
- ASEAN シングルウィンドウ（ASW）の促進
- 工業製品の規格・基準の調和
- ビジネスパーソンの域内移動の円滑化
- サプライチェーンの連結性・強靱性の強化

提言の柱 2：グリーン経済とサステナビリティ

- グリーン経済、グリーン・トランジション（GX）
- 電気自動車（EV）、水素、バッテリー
- 地域社会における環境問題
- 責任ある企業行動（RBC）、企業の社会的責任（CSR）

提言の柱 3：デジタル経済とイノベーション、新興技術

- 電子政府の推進、電子政府・電子サービスの推進
- デジタルの法的枠組みと制度、データガバナンスの整備
- デジタル・インフラストラクチャー

提言の柱 4：包摂的な ASEAN

- 人的資本の開発
- 金融安定性の確保
- 金融包摂性の促進
- 人的資本の流動化への支援